

カトリック高円寺教会 ミサ説教

2020年10月4日

年間第27主日

第一朗読 イザヤ5・1-7

第二朗読 フィリピ4・6-9

福音朗読 マタイ21・33-43

イエズス会 平林 冬樹神父

今朝は、主任司祭である吉池神父様を差し置いて、こうしてしゃしゃり出るのは僭越の限りですが、仰せですので、恥を忍んでお話をさせていただきたいと思います。

さて、今朝のミサで読まれたマタイ福音書に記されたイエスのたとえ話、または寓話は、ある意味で分かりやすい話であると思います。ぶどう園を作り農夫たちに任せて旅に出た人は、父である神でしょう。そして任せられた農夫たちは、イエスが話している相手である祭司長や長老たち、つまりユダヤ教の指導者です。旧約時代、ユダヤ教の指導者たちは、神が遣わした多くの預言者を迫害しました。そして主人が最後に送った息子とは、イエスのことでしょう。このたとえ話しでは、農夫たちが主人の息子を殺したとあり、予言のような筋になっています。話しの結びにイエスは、祭司長や長老たちに問います。「さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか」(マタイ21.40)。彼らは答えます。「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがいない」(マタイ21.41)。何と祭司長と長老たちは、自分で自分に死刑の判決を下してしまったのです。とても厳しい話です。

さて、このぶどう園は、何のたとえでしょう。今朝、第一朗読で読まれたイザヤの預言によれば、ぶどう園はイスラエルです。しかしもう一つの解釈が成り立ちます。このぶどう園は、神が造られたこの世界とも考えられます。神は、必要なものをすべて整え、実りを上げるようにとの期待を込めて、世界を人間に任せたと解釈できるでしょう。そして主人は、旅に出る。つまり、世界は、神の不在を感じるのです。人が呼んでも、神は答えてくださらない。神は、私たちに任せておられるのです。

では、神が人間に期待する実りとは何でしょう。それは、神がわたしたちに託してくださった夢を叶えることです。「この人たちは、こうあってほしいなあ」という夢です。

わたしは、神に託された夢を本気で実現しようとしてきたかどうか。そう問われれば、たじろぎます。自分勝手に、「これをするのが楽しい」「こうしたい」「おいしいものを食べていたい」「楽をしたい」、こんなふうに考えて生きてきました。神の望みは、そっちのけに自分がしたいようにしてきたのです。「神父さん、コロナ禍の中でどうお過ごしですか」と問われると、「いやあ、楽をさせていただいています。頼まれた3つの黙想会の指導も講演も、なくなりました。どこにも出かけられませんし、誰も訪ねて来ません。公開ミサもない。まあ実に平和な暮らしです」なんて言っている自分が本当に恥ずかしい。世の中には、仕事がなくなって生活が成り立たない人が大勢いるのに、のんきなことをよく言ったものだと自分を恥じるばかりです。神に頼まれ

たことをせず、頼まれてもいないことをする。神などいないかのように振る舞うことは、しょっちゅうです。情けないことです。祭司長や民の長老たちは、「そんな悪い農夫は死んでしまえ」、「殺してしまえ」と言っています。わたしも、こんなところで偉そうに説教していることが、だんだん恐ろしくなってきます。本当は、わたしは神の前で堂々と生きていられるような者ではないのです。

しかし、イエスは、ここにいる指導者たちに何とっておられるでしょう。「そうだ、よく言ったものだ。お前たちは自分で自分に死刑を宣告したのだから死んでしまえ」と言っておられません。「あなたたちは、やがてわたしを殺すだろう。そんな者たちは、神から厳しい罰を受けるがよい」とも言っておられない。「あなたたちはわたしを捨てて殺すだろう。でも父である神は、あなたたちが捨てた石を救い主としてくださる。家を支える土台の石にしてください」。正義から言えば死に値するユダヤの指導者たちをも救おうと、イエスは救いの手を差し伸べておられる。イエスは、正義による裁きを前に、それを遮るようにして立ちはだかり、替わりにご自分が十字架の上で死んでしまいました。「この人たちは何をしているか分からないのですから」。イエスは、そう言って、この不屈きなわたしを救ってくださいました。

ましてや、ここに集まっておられる皆さん、神の前で至らないところがあると悩んでおられるかもしれません。思うように神に従えないと感じるかもしれません。でも、それはイエスが代わりに償ってくださる。担ってくださいます。それどころか、永遠のいのちをくださったのです。

ぶどう園に垣を巡らし、搾り場を作り、やぐらを立てる主人のように、わたしたちに全ての恵みを与えてくださった神は、わたしたちの至らなさの尻拭いまでしてください。今日、読まれたイエスのメッセージは、祭司長や民の長老たちに対してさえ、福音の訪れではないかと思えます。

では、わたしたちが期待されている実りとは何でしょうか。それは、神とともにあって永遠のいのちに生きることです。神の元に帰り、神を賛美し、永遠に生きること、つまり幸せの極みに至ることです。今朝のイエスのことばに励まされ、神の夢を叶えることができるように、神への信頼と希望と愛を深めましょう。